

認定介護福祉士誕生記念イベント開会式典の様子

○厚生労働省社会・援護局 谷内 繁局長(代読:朝川知昭総務課長)

高齢単身世帯の増加、認知症高齢者の増加、地域で暮らす障がい者の増加などにより、介護ニーズが複雑化・多様化・高度化してきている。そのために多様な介護ニーズに対応できる専門的な技能や知識を有し、利用者やご家族、介護従事者等に必要な支援・指導ができる認定介護福祉士の存在が必要不可欠だと考えている。厚生労働省としても、認定介護福祉士制度の普及・発展に努めて参ります。



○公益社団法人日本看護協会 福井トシ子会長(代読:齋藤訓子副会長)

これからの介護福祉士には、最善の介護を提供する高い実践能力、介護チームをマネジメントする能力、さらに関係機関や多職種とも連携・協働する能力などが求められる。介護福祉士のキャリアアップを支える仕組みとして、認定介護福祉士の養成が本格的に開始されることは地域包括ケアシステムを推進するうえで大変重要だと考える。日本看護協会では、約 20 年の間に認定看護師、専門看護師、認定看護管理者という3つの資格認定制度を創設し、推進しているが、専門性の高い人材育成を目指した、資格制度の推進と運営は非常に時間のかかる取り組みだ。なによりも、多くの介護福祉士の方々がその資格に誇りをもち、社会的にも高い評価を得られるような制度に発展していくことを期待したい。

○公益社団法人日本医師会 江澤和彦常任理事(祝電)

やむをえず要介護状態になっても、誰もが本来の普通の生活を望んでおり、その生活を実現するために、尊厳の保持と自立支援、重度化防止に資する取り組みが不可欠である。本日の記念イベントを契機として介護のプロフェッショナルである介護福祉士がさらなる飛躍を遂げることに期待申し上げます。

○公益社団法人日本介護福祉士会 石本淳也会長

「介護福祉士の未来は、介護福祉士自身が切り開く」という言葉をモットーに、専門職それぞれが介護の未来を見据えて日々の実践を行っていくことが重要であり、介護福祉士の目指すべきロールモデルとして、認定介護福祉士が社会的にしっかりと認知されることが重要である。長野県介護福祉士会に引き続き、三重県、静岡県ほかの介護福祉士会でもこの研修がスタートしている。これをより推進し、介護福祉士が研さんを積み上げる道筋を作り上げてまいりたい。

以上